

## お手柄！ 水難事故の園児救出

「ドロップパーズ」の3人



▲左から小杉くん、岩下くん、高橋くん。



▲日高学長と長野市からの感謝状を持つ小杉くん

今夏、長野市のプールで起きた5歳児の水難事故の救出で、学生3人が長野市消防局から表彰された。

お手柄の3人は、小杉純くん(経営4)、岩下文拓くん(文4)、高橋智宏くん(商2)で、全員サークル「ドロップパーズ」のメンバー。同サークル夏合宿中の8月3日、長野市の総合レクリエーションセンター「サンマリンながの」の流水プールで、園児が溺れているのを発見した3人は、プールサイドまで救出して監視員に通報。園児は、応急手当が施され無事だった。後日、同市の北澤正喜消防長から感謝状が日高義博学長の元に届き、学長室で代表者の小杉くんに渡された。

「男児は、うつぶせで浮かんでいたが、突然あおむけになり、口から水を噴水のように出し始めました。

もう少し発見が遅かったら、手遅れだったと聞きました」と小杉くんは当時の状況を振り返る。高橋くんは「たまたまその場に居合わせただけです」と話すが、「溺れている状態だったとは、周りの遊泳者は気付かなかったようだ」(岩下くん)と言う。3人とも「男の子の命が助かって本当に良かった」と話している。

---

## 時事問題を英語で討論

専修グリーンディスカッション 関東圏中心に17校・250人参加



▲あいさつする東正喜くん

「専修グリーンディスカッション」が9月23日、神田キャンパスで行われ、刑法問題をテーマに英語での熱の入った討議が展開された。

同ディスカッションは、英会話研究会(下城友香代表・商3、部員39人)が主催し、今回で34回を数え

る伝統ある大会。大学の英会話研究会のメンバーが6、7人一組でテーブルを囲み、国内時事問題をすべて英語で討議するもので、会話能力に加え論理的に話す技量が要求される。

今年の参加は東京大学、東北大学、青山学院大学、上智大学、早稲田大学など関東圏を中心にした17校の250人。少年法、死刑制度、冤罪(えんざい)など犯罪に関する諸問題を、どのように解決していったらよいかをディスカッションした。

実行委員長として大会の準備、運営に携わった東正喜くん(法2)は「部員が一致団結して頑張ってくれました。他大学から『来年もぜひ参加したい』といった感謝の言葉が多数寄せられ、大きな達成感でいっぱいです。今後もこの伝統を絶やさないよう、精進していきたい」と話している。

---

## 「飛行船ロボットコンテスト」で最優秀賞に輝く

ネットワーク情報学部 FC専士チーム



▲飯田助教授を中心に「FC専士チーム」と飛行船

ネットワーク情報学部プロジェクトIの一環として、産学協同でロボット設計を行っている3年次生13人のチーム(飯田周作助教授・指導)が「MDDロボットチャレンジ(飛行船ロボットコンテスト)」に出場。システム分析、設計モデル部門において最優秀賞に輝いた。同チームはCATS(株)、富士通(株)、富士通デバイス(株)3社の技術支援を得て飛行船のモデルの作成、ソフトウェアの開発を行ってきた。

コンテストは10月14、15の両日、台場の日本科学未来館で、情報処理学会ソフトウェア工学研究会の特別企画として行われた。自律航行型飛行船ロボットを決められたコース通りに飛行させ、ポイントを競うものだが、飛行船を制御するシステムの設計が正しく記述されているか、設計が分かりやすいものであるかも審査の対象となる。飯田助教授率いる「FC専士チーム」はソフトウェア開発において最も重要とされる設計で、学術的・工学的に高く評価された。

「コンテスト前日も徹夜作業で、当日はほとんどぶっつけ本番の状態だった。しかし低空飛行ながら約4分間の飛行に成功。達成感を味わうことができた」「3班に分かれて作業を進行、9月初旬から開始し日程が厳しい中、全員が休日返上でコンテストに臨んだ」「通常、実習では使用出来ない、メーカーにしかない機材を使うことが出来た」など、学生メンバーは最優秀賞受賞の喜びとそれまでの厳しい道のりを話してくれた。飯田助教授は「飛行船が離陸した時の感動は忘れられない。メンバー全員にとって貴重な体験だった。産学連携で取り組んだことも初めての試みで、今回の受賞で今後のプロジェクト活動に弾みがついた」と語っている。メンバーは次の通り=敬称略。

下 麥博雅、山田高敬、平田大祐、渡邊さやか、岩清水美里、山口道子、吉田剛、長岡俊平、村山真也、川崎恵久、小林裕典、高橋歩、一ノ瀬創

---

## アトリウムに優雅な調べ

専フィルミニコンサート



10月27日、学生部主催の専修大学フィルハーモニー管弦楽団ミニコンサートが、生田キャンパスで開催された＝写真。「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」「水上の音楽」が演奏され、昼休みのアトリウムに美しい調べが響き渡った。

---

## 研修会 これってセクハラ？

－常に自己チェックを－

専修大学セクシュアル・ハラスメント防止委員会(委員長＝瓶子長幸経営学部教授)主催の研修会が10月19日、生田キャンパスで開催された。講師は東京経済大学の人権コーディネーター・宮本恵氏。

学生、教職員といったさまざまな人間関係がある大学では、パワー構造によりセクシュアル・ハラスメントが起きやすいと解説し、防止のためには「ジェンダー」について正しい意識を持って相手に接したり、男女間ではコミュニケーションギャップが存在するという認識を持つ、といった自己チェックを常に行う重要性があると語った。最後にゼミでの人権啓発や、学生の手による防止ポスター、啓発ビデオなどを作成している東京経済大学での実践報告がなされた。

---

## 健康フラッシュ

インターネットによる健康情報の利用の仕方

今や、インターネットは仕事に欠かせない道具であると同時に、日常生活の基本的な情報源の一つになっています。医療や健康についての情報源としても、テレビよりも、家族や友人よりもインターネットの方が身近な存在になっているのではないでしょうか。

しかし、インターネット上ではいろいろな立場の人が、さまざまな考えを持って情報を発信しています。「A病院のB先生の治療で治った」。反対に「A病院のB先生の治療で悪化した」という、意見の食い違いをよく見かけます。これは、同じ病気や症状でも治療の結果に対する評価の違いからくるものと思われる。また、一見

すると専門的な情報に見えても科学的な根拠が曖昧なものがあったりします。

このようにインターネットによる情報の利用の仕方によっては、最新の治療を受けることができる機会もありますが、誤って自分の健康を損なう危険性もあり得るということです。提供された情報をうのみにせず、常にリスクを考え、疑問があれば医師の意見を直接求め、適切なアドバイスを受ける必要があります。

そして、インターネットによる医療や健康情報の利用の仕方では大切なのは、掲載された情報がいつの時点のものかを常に確認し、さらに特定情報だけを利用するのではなく、複数の情報を読み比べながら、自分に必要な情報を選び取っていくことだと思います。

(保健室)

## キャンパス情報

### ▼専修大学防災マニュアル(学生用)＝写真＝配布中

キャンパス内で地震や火災などの災害が起きた場合の避難経路や基本行動について記載した防災マニュアルが出来あがった。次の窓口および「ニュース専修」ラックに置いてある。熟読し、日ごろから「心の準備」をしておきましょう。

- ・学生生活課
- ・二部事務課

### ▼ミュージカル鑑賞教室＝12月3日(金)「ライオンキング」(四季劇場)・定員50人(先着順)・費用＝2500円・受付＝11/24(水)～26(金)

問合せ:学生生活課・二部事務課

### ◎定期演奏会のご案内

▼専修大学フィルハーモニー管弦楽団＝指揮に松沼俊彦氏、バイオリンに小林美恵氏を迎え「専修大学創立125年記念演奏会」を12月8日(水)、東京オペラシティコンサートホールで開催。入場料1000円。曲目＝チャイコフスキー「交響曲第5番」／メンデルスゾーン「バイオリン協奏曲ホ短調」ほか。

▼グリークラブ＝「第40回定期演奏会」を11月23日(火・祝)、東京都中央区の第一生命ホールで開催。入場料1000円。(曲目＝團伊玖磨「岬の墓」ほか)

### ◎第2回ちびっ子サッカー教室参加者募集

専大の人工芝グラウンドで川崎フロンターレのプロ・コーチに教わるチャンス！ <12月23日(木)から25日(土)までの3日間>

【ニュース専修2004年11月号14面】